入試にチャレンジ　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

筑紫に、なにがしの押領使（地方の役人）などいふやうなる者のありけるが、土大根（大根）を、よろづにいみじき（すばらしい）薬とて、朝ごとに二つづつ①焼きて食ひけること、年久しくなりぬ。ある時、館（屋敷）の内に、人もなかりける隙（すき）をはかりて、敵襲ひ来たりて、囲み責めけるに、館の内に、兵二人出で来て、命を惜しまず戦ひて、みな追ひ返してげり。いと不思議に覚えて、「日ごろここにものし給ふ（いらっしゃる）とも見ぬ人々の、かく戦ひし給ふは、いかなる人ぞ。」と②問ひければ、「年ごろ頼みて、朝な朝な召しつる（召し上がった）土大根らに候ふ。」と③言ひて失せにけり。深く信をいたしぬれば（心から信じていれば）、④かかる徳もありけるにこそ。

（『徒然草』による）

問一　――線部①「焼きて食ひける」・②「問ひければ」・③「言ひて」の主語を、ア～ウから一つずつ選びなさい。（同じ記号を使ってもよい）

ア　押領使　　イ　敵　　ウ　兵二人

①［　　］　②［　　］　③［　　］

問二　――線部④「かかる徳」とは、どのようなことですか。三十字以内で説明しなさい。

問三　最後の一文の「こそ」の結びは省かれています。省かれている語を選びなさい。　ア　あり　　イ　ある　　ウ　あらめ　　エ　あらむ　［　　］

問四　本文の内容として最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　押領使は、兵二人の正体が大根だと前から知っていた。

イ　敵は、館に家来が大勢いるときをねらって攻めてきた。

ウ　大根の力を深く信じて食べ続けたことが、思いがけない助けになった。

エ　兵二人は、押領使からほうびを受け取って去っていった。　［　　］

問五　この作品と同じジャンルの作品を、次のア～エからすべて選び、記号で答えなさい。

ア　『枕草子』　　イ　『平家物語』　　ウ　『方丈記』　　エ　『宇治拾遺物語』

［　　］［　　］

解答（答えと短い解き方）

古文 入試① 徒然草の読み取り・主語と係り結び

入試にチャレンジ

問一 ①ア　②ア　③ウ

会話の中身から、だれのことばかを決める。①②押領使　③「……土大根らに候ふ」と答えて消えた兵二人。

問二 （例）長年食べてきた大根が兵になって、敵を追い返してくれたこと。（二十九字）

「かかる」は前の出来事を指す。採点の要素：①長年食べてきた大根が　②兵になって　③敵を追い返して助けてくれた。

問三 ウ

「〜にこそあらめ」の「あらめ」が省かれている（結びの省略）。「こそ」の結びは已然形。

問四 ウ

最後の「深く信をいたしぬれば、かかる徳もありけるにこそ」が筆者の感想。

問五 ア・ウ

『徒然草』は随筆。同じ随筆は『枕草子』と『方丈記』（三大随筆）。

くわしい解き方は創心館出版の攻略テキスト（別冊解答）に載っています。